

地域概要

■ 地域概要

- 群馬県の最北端に位置する利根川源流の町であり、流域約3,000万人の暮らしを支える責務を担う
- 日本に10地域しかないユネスコエコパークおよびSDGs未来都市として、豊かな自然を持続可能な形で活用しながら観光産業を営んでおり、**圧倒的な自然景観やアクティビティ、みなかみ18湯と称される温泉資源など幅広い観光資源を有する**

■ 観光の動向

- 【全体の概況】：
コロナによる打撃は受けたが、これまでもハード・ソフトの両面で観光振興に積極的に取り組んでおり、**町内の事業者の機運も高まっている**。
外部環境としても**自然の中でのツーリズムへの関心が高まっており、みなかみ町にとっては追い風である**
- 【国内客の状況】：
大部分が首都圏から来訪しており、豊富なアクティビティなどが人気で、旅行会社の調査では満足度上位を誇る。更なるコンテンツの磨き上げや二次交通など地域課題の改善により更なる誘客を図りたい
- 【インバウンドの状況】：
コロナ禍前まで増加傾向にあり、**冬季の雪景色・パウダースノーや文化体験はキラーコンテンツ**となっている。新たな誘客の柱とすべく、セグメントを切りながら積極的な誘客を継続していきたい

SWOT分析

強み（Strength）

- **ユネスコエコパーク・SDGs未来都市**にも登録されているみなかみ町では、**人間と自然の共生を体験し、自然の価値を学ぶことができる**
- **自然を舞台にした「アクティビティ」を通年で楽しめる**
- 「みなかみ18湯」と称される**様々な泉質/特徴を持った温泉**があり、自分好みの温泉を楽しめる
- みなかみ町の**美しい自然・綺麗な水が育てた「食」**

機会（Opportunity）

- 町内でのこれまでの観光に係る取組により、**町全体でチャレンジの気運が高まっている**
- **アドベンチャー/ネイチャーツーリズム・さらにはスローライフ・エコ・LOHAS**に係る関心が全世代で増加
- 若年層を中心とした**体験型旅行への需要増加傾向**、国内での**アクティブシニア層の増加**、コロナ禍収束による**インバウンド層の回復**
- **SNS情報**を基に旅行先を決める層の増加

弱み（Weakness）

- 宿泊/観光施設における**老朽化/陳腐化**が進行し、**高付加価値な体験を提供できていない**
- 「町全体」を楽しむための**二次交通が整備されていない**
- **インバウンド対応やバリアフリー化などが不十分**
- みなかみ町が持つ**観光資源の認知度が低い**
- **デジタル技術を活かした取組が不十分**であり、観光客の利便性/体験価値を向上できていない

脅威（Threat）

- **若者の車離れ**による来客減少（二次交通整備が重要）
- **少子高齢化・町内人口流出/減少**により、観光関連事業者の高齢化・人手不足・後継者不足が進む恐れ
- **近隣の温泉地との競争激化**（各地の最新動向を把握し競争優位を確保する必要あり）
- みなかみ町の**社会保障関連経費の急速な増大による観光関連予算の縮小リスク**

ビジョン	「みなかみユネスコエコパーク」「SDGs未来都市」の理念に基づき、 自然と共存することの「価値」と「喜び」を体感できるまちづくり
コンセプト	① ユネスコエコパークを体感できるコンテンツ提供 ② 誰もがストレスフリーに長期滞在できる環境整備 ③ 自然と共存した観光産業の発展による地域活性化 ④ データに基づくPDCAサイクルによる“地域のポテンシャル強化”
ターゲット	・ 豊かな山岳観光資源がもたらす 体験型観光やアクティビティを求める若年層 ・ ユネスコエコパークやSDGs未来都市についての 学び・体験・実感を求める三世代ファミリー層 ・ 日本独特の「自然観」について関心が高く、 日本ならではのグリーンツーリズムを求めている外国人

課題（現状とビジョンのギャップ）

みなかみの自然・文化との調和が欠けた景観

- ・ 廃屋や、谷川岳・利根川と調和しない建物が点在する など

宿泊施設における陳腐化の進行

- ・ ビジョンで定めた自然との共存を体感できる施設が少ない など

優れた素材を観光に活かしてきていない

- ・ 豊かな自然・温泉・文化などの魅力をターゲットに即してコンテンツ化できていない など

一部観光客において滞在時の利便性/快適性が低い

- ・ バリアフリー化の改善の余地がある、二次交通が脆弱 など

生産性の低い観光地経営

- ・ 情報収集～予約までの導線欠如による機会損失、外部OTAへの資金流出 など

課題解決に向けた具体的施策

みなかみの豊かな自然と調和した景観整備

- ・ 周囲の自然と調和する外観改修、廃屋撤去 など

自然と共存する喜びを体感できる宿泊施設への改修

- ・ 山々の眺め・川のせせらぎを感じられる客室改修 など

豊かな自然を活かした観光コンテンツ/サービスの開発

- ・ 観光施設の改修（ハード）、夜間ツアーなどのコンテンツ開発（ソフト） など

誰もが何の障害もなくみなかみの自然を楽しめる環境の整備

- ・ バリアフリー改修、二次交通の強化 など

観光客の総合的な体験価値向上を下支えするDX化の推進

- ・ 地域OTAを開発し観光ポータルサイトと統合 など

面的DX

1. 地域特性分析

A. 地域概要・観光の動向 (1/2)

地域概要	観光資源	観光の概況	観光客の属性/動向
			全体 インバウンド

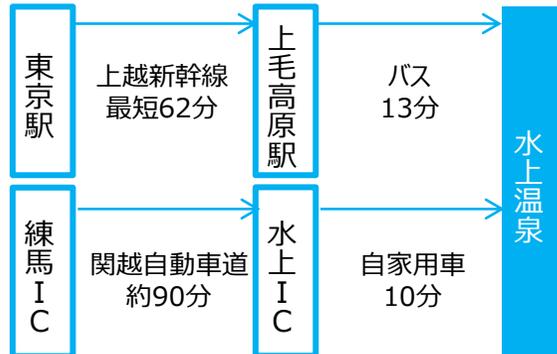
<地域概要>

温泉をはじめとした豊富な自然資源・景観を背景に、観光産業が発展をしてきた地域

- 群馬県の最北端に位置する利根川源流の町であり、流域約3,000万人の暮らしを支える責務を担う
- 首都圏からは上越新幹線で東京駅から最短62分、関越自動車道であれば練馬ICから月夜野IC、水上ICまで約90分と**好アクセスな立地**
- 国内に10箇所しかない生物圏保存地域「ユネスコエコパーク」(2017/6登録)やSDGs未来都市(2019/7選定)としてのまちづくりを進めており、豊かな自然、谷川連峰が織りなす景観/それらを活用したアクティビティや、みなかみ18湯と称されるように温泉資源が豊富
 - じゃらん「人気観光地 満足度ランキング」10位、にっぽんの温泉100選ランキング41位(2022年度)など、評判の高い観光地である
- 年間約400万人もの観光客が訪れる観光地であるため、**観光業がみなかみ町の経済を支える基盤産業の1つであり、ユネスコエコパーク・SDGs未来都市の理念の下、持続可能な形で営まれている**

所在地/東京からのアクセス

みなかみ町



ユネスコエコパーク登録地域



SDGs未来都市

- 地方創生SDGsの達成に向け、優れたSDGsの取組を提案する地方自治体を「SDGs未来都市」として選定しており、2018年度の制度開始から2023年度までに182都市が選定されている
- ユネスコは、「ユネスコエコパーク登録地域はSDGsの取り組みを両輪として実践すべき」としており、本町は先進的に実行中



1. 地域特性分析

A. 地域概要・観光の動向 (2/2)

地域
概要

観光
資源

観光
の概況

観光客の属性/動向
全体 インバウンド

<観光資源>

自然・
気候

人と自然が共生する社会の世界的モデル地域「みなかみユネスコエコパーク」

- 利根川源流のまちとして豊かな自然資源・生態系が集積し、みなかみでしか見ることのできない希少な自然が広がる
- 谷川連峰の圧倒的な自然景観と利根川の水資源により発展した農村風景



文化・
体験

「自然と人間の共生」という理念で築き上げられた美しい里山景観と大自然のアクティビティ

- 雄大な大自然に囲まれ自然との共生を体現する空間で、一年中、多様なアクティビティができる



温泉

様々な泉質/特徴を持つ「みなかみ18湯」

- みなかみの自然を眺めながら、自分なりの「温泉」を楽しめる



食

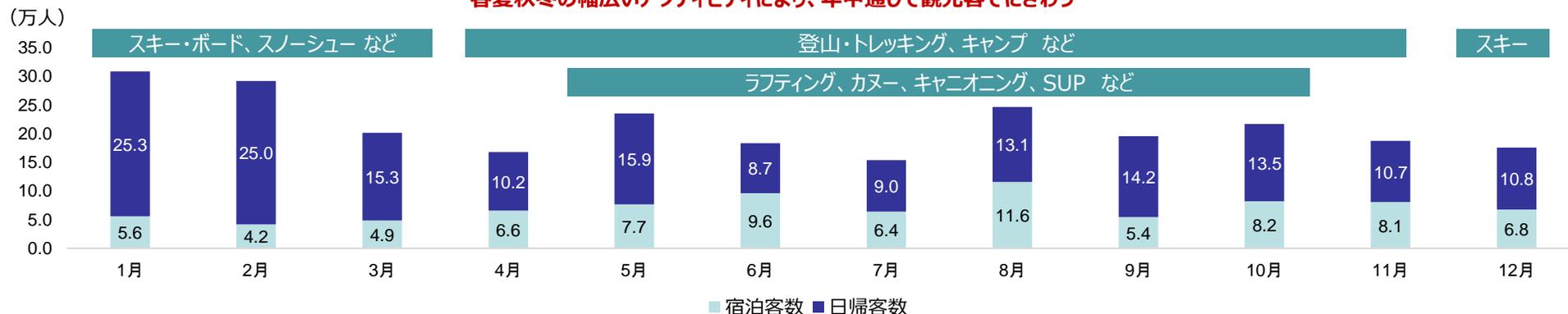
みなかみの美しい自然・きれいな水が育てた「食」

- お米・野菜・果物など豊かな自然が育んだ恵みを存分に堪能することができる



月別の観光客数推移 (2022年1~12月)

春夏秋冬の幅広いアクティビティにより、年中通して観光客でにぎわう



(出典) 「群馬県 観光入込客数統計調査報告書」を基に作成

1. 地域特性分析

B. 地域の強み (1/4)

自然

体験

温泉

食



■ 自然と人が共生する社会の世界的モデル地域「みなかみユネスコエコパーク」

➢ 豊かな自然資源・生態系を「まもり、いかし、ひろめる」取組によって、「自然」と「人間」が共に生きる営みを体験できる

利根川源流のまちとして豊かな自然資源・生態系が集積し、みなかみでしか見ることのできない希少な自然が広がる

- ✓ みなかみ町が2017/6に登録されたユネスコエコパークは、地域の自然資源を活用しながら持続可能な経済活動を進めるモデル地域であり、日本でも10地域しかなく、SDGsへの関心が高まる中で観光の側面でも注目される。
- ✓ みなかみが位置する山稜一帯は豪雪地帯であり、降雪の影響で雪食凹地、氾濫原、河岸段丘といった特徴的な地形・地質が形成されている。加えて、日本海側と太平洋側の気候条件の移行帯であることから、希少かつ独特な生態系が構築されている。

土地利用の分類管理によって自然との共生を実現しており、見る/遊ぶに留まらず自然のありがたみ/価値を学ぶことができる

- ✓ **核心地域**：手つかずの原生的な自然環境が利根川の最初の一滴を生み出すエリア
- ✓ **緩衝地域**：水源涵養機能をはじめ森林の多様な機能を高めるための保全管理を行い環境教育・調査研究、エコツーリズム等が行われるエリア
- ✓ **移行地域**：日々の暮らしと経済活動を行う中で豊かな森と水の持続的な利用を積極的に行うエリア



源流域(赤谷の森)の空を舞うイヌワシのつがい



原生的な姿を残す奥利根のブナの森



谷川連峰



一ノ倉沢の大岸壁(日本三大岸壁)

利根川最初の一滴を生み出す大水上山

谷川岳山頂から望む谷川連峰

エリア内の固有種ホソバヒナウスユキソウ

環境学習

調査・研究

一ノ倉沢の大岸壁(エコツーリズム)

利根川を下るラフティング

農村景観や文化が根付く「たくみの里」

温泉(みなかみ18湯)

1. 地域特性分析

B. 地域の強み (2/4)

■ 「自然と人間の共生」という理念で築き上げられた美しい里山景観と大自然のアクティビティ

➤ 雄大な大自然に囲まれ自然との共生を体現する空間で、一年中、多様なアクティビティができる

谷川連峰の圧倒的な自然景観と利根川の水資源により発展した農村風景

- ✓ 自然と人間の共生を実現する土地利用により、みなかみには雄大な大自然から風光明媚な農村風景まで楽しむことができ、来訪客に感動と癒しを与えている
- ✓ みなかみは都心からのアクセスが良好で、非日常の自然体験を手軽に楽しめるという意味でも貴重なエリアである



山・川・湖・空を舞台に存分にアクティビティを楽しめるグリーンシーズン

- ✓ 谷川岳からは多様な高山植物や雄大なパノラマを望むことができ、利根川が作り出した諏訪峡は四季折々の美しさを見せる
- ✓ カヌーからラフティング、ハイキングからマウンテンバイクまで、ゆっくり癒されたい人も、思い切り体を動かしたい人も存分に楽しめるアクティビティが充実



ウォーターアクティビティが人気のエリアランキング (2017年) (出典：楽天トラベル)

1位	水上・猿ヶ京・沼田
2位	北部 (沖縄)
3位	釧路・阿寒・川湯・根室
4位	鬼怒川・川治・湯西川
5位	ルスツ・ニセコ・倶知安

豪雪地帯を活かした多様なアクティビティを提供するウィンターシーズン

- ✓ エリア内には8つのゲレンデが整備され、スキーヤー/スノーボーダーはお気に入りのゲレンデを探せる
- ✓ スキー/スノボに限らず、スノーモービル/犬ぞり体験/スノーシュー/エアボードなど、中々味わえないアクティビティも豊富に提供



(出典) 観光経済新聞「ウォーターアクティビティが人気のエリアランキングで、群馬県の上水・猿ヶ京・沼田エリアが2年連続1位」

1. 地域特性分析

B. 地域の強み (3/4)

自然

体験

温泉

食

■ 様々な泉質/特徴を持つ「みなかみ18湯」

➢ みなかみの自然を眺めながら、自分なりの「温泉」を楽しむ

「みなかみ18湯」と称されるバラエティ豊かな温泉地

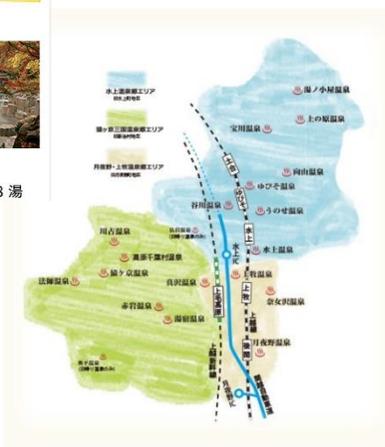
- ✓ みなかみの中心に位置する水上温泉、古来の伝説が語り継がれる宝川温泉、古くから湯治場として栄えた湯宿温泉、2,000m級の美しい山々に囲まれた上の原温泉など、泉質や特徴の異なる温泉地が点在
- ✓ 温泉総選挙リフレッシュ部門で第1位（2016年）、にっぽんの温泉100選で41位・関東6位（2022年）の実績もある

泉質・雰囲気・景観も多種多様なため、自分好みの温泉を楽しむ

- ✓ 歴史を感じながら入浴を楽しみたい人には明治28年に完成した大浴場「法師の湯」
- ✓ 多彩な露天風呂で秘湯巡りをしたい人には、18種の露天風呂を24時間貸し切り無料で入れる「龍洞」（宿泊者のみ）
- ✓ 大自然の中で温泉を楽しみたい人には「宝川温泉」など

近年のサウナブームの中で、大自然の中で“ととのう”唯一無二の体験を提供

- ✓ 温泉の楽しみ方の1つとして、サウナを提供する施設も多い
- ✓ プライベートサウナや、天然の沢を活用した水風呂、大自然の中での休憩スペースなど、都市部では味わえない“ととのい”を体験することができる



みなかみ18湯マップ



法師の湯



龍洞



宝川温泉



1. 地域特性分析

B. 地域の強み (4/4)

自然

体験

温泉

食

■ みなかみの美しい自然・きれいな水が育てた「食」

➤ お米・野菜・果物など豊かな自然が育んだ恵みを存分に堪能することができる

みなかみの自然・気候だからこそ収穫できる極上の郷土食材

- ✓ 河岸段丘の高低差、朝晩の寒暖差を活かした良質な農産物を栽培している
- ✓ 国際コンクールで金賞を受賞した「水月夜」などのブランド米、低温熟成したブランド舞茸「すくよか」、幻のりんごと呼ばれる「ぐんま名月」などを栽培している

郷土食材を活かしてふるまわれる多彩な料理

- ✓ 町内には谷川岳の湧水と水月夜、具材に地場の食材を使用したおにぎり屋や、地元舞茸「すくよか」の天ぷらを蕎麦と味わえる蕎麦屋、地元の野菜をふんだんに使ったピザを楽しめる店などがある
- ✓ 絶景を眺めながら食事できるレストランもあり、高質な食事体験ができる

「食」を活かしたアクティビティにより、自然の恵みのありがたさ・郷土文化を学習できる

- ✓ そば打ち体験や果物狩りなど手軽に楽しめる体験を豊富に提供
- ✓ 実際に古民家に宿泊し、農業体験や料理体験を通じて農家の暮らしを学べる体験型コンテンツが提供され、住民との交流もできる



棚田



ブランド米「水月夜」



おにぎり
(futamimi)



そばとまいたけ天
(そば処 くぼた)



そば打ち体験



りんご狩り



ブランド舞茸「すくよか」



幻のりんご「ぐんま名月」



ピザ
(ラ・ビエール)



絶景を眺めながら食事
(水上高原ホテル)



農家体験



食を通じた
地域との交流

1. 地域特性分析

C. 地域の弱み

- **美しい自然・文化など優れた素材は豊富に存在するものの、ニーズに即したコンテンツ化や旅行者が快適に滞在できる環境整備が不十分であり、観光地として改善の余地がある**
- **宿泊/観光施設における老朽化/陳腐化が進行しており、高付加価値な体験を提供できていない**
 - 景観：老朽化した施設や廃屋となった建物が域内に点在しており、街並みや美しい自然景観を毀損している
 - 宿泊施設：みなかみならではの美しい自然を感じられる宿泊施設の整備や、長期滞在化に耐え得る設備導入など、旅行ニーズに合わせた宿泊施設の更新が停滞しており、観光客が求める高質な体験を提供できていない
 - 観光施設：観光客が気軽に立ち寄れる飲食店や物産店が少なく、回遊を阻害する一因になっている
- **「町全体」を楽しむための二次交通が整備されていない**
 - 路線バスは1時間に1本、タクシーも18時以降不在となり、自家用車・レンタカーを利用しないと町内の移動が困難
→シェアカーやシェアサイクルの導入など、二次交通改善に向けた取組は進めてきているものの、幅広い客層を誘客するうえではMaaSなど更なる取組の強化が必要不可欠
- **インバウンド対応やバリアフリーなど、万人が楽しめる環境を整備し切れていない**
 - アフターコロナでインバウンド需要の回復が見込まれる中で、海外向けの情報発信ができていない、外国人向け観光情報、案内所、対応ガイドなどが十分でない、Wi-Fi等情報インフラ・案内板・HP等の多言語対応が不十分等、インバウンド層を受け入れる上での課題が残存している
 - シニア層がゆったりと温泉を楽しむ素材は十分にある一方で、バリアフリー/ユニバーサルデザインの整備が不十分なために、満足度低下や顧客逸失に繋がっている
- **みなかみ町が持つ観光資源の認知度が低く、本来の魅力を訴求しきれしていない**
 - 「みなかみ」の名前自体の知名度は首都圏を中心に高いものの、みなかみ町が持つ豊富な温泉やアクティビティまでは認知されておらず、誘客に繋がっていない、または来客者が十分に観光資源を楽しまないまま帰宅してしまう傾向がある
- **デジタル技術を活かした取組が不十分であり、観光客の利便性/体験価値を向上しきれっていない**
 - みなかみ町では各アクティビティ・宿泊等の予約を一元化したサイトが存在せず、キャッシュレス決済に対応していない店舗もある
→予約サイトやキャッシュレス決済など断片的な取組に閉じずに、観光客の利用データを収集・分析し観光施策に活かすDXを推進することで、上記の認知度向上なども含め、総合的に観光地としての経営高度化を実現していきたい

2. 地域計画

A. コンセプト

関連する本事業の取組（例）

1 ユネスコエコパークを体感できるコンテンツ提供

日本に10か所しか存在しない「ユネスコエコパーク」を体感するために、国内外から多くの観光客を惹きつける観光地を目指します。

- ・ 自然と調和する外観改修
- ・ 露天風呂付客室改修
- ・ 山々を臨むカフェ改修 など

2 誰もがストレスフリーに長期滞在できる環境整備

「みなかみユネスコパーク」での体験を誰もがなんの障害もなく享受し、長期滞在・リピートできる観光地を目指します。

- ・ バリアフリー化
- ・ 子どもが楽しめるプレイルーム など

3 自然と共存した観光産業の発展による地域活性化

SDGsに基づいた様々な観光サービスの充実に伴い、地域（住民）を活性化させ、シビックプライドを醸成します。

- ・ 従業員の待遇改善
- ・ 資源循環に資する改修 など

4 データに基づくPDCAサイクルによる“地域のポテンシャル強化”

データを活用して地域のポテンシャルを分析し、各観光施策を有機的に結びます。

- ・ 面的DX

2. 地域計画

B. ターゲット

若年層やその親世代、外国人観光客を主なターゲットとする

一度では味わいきれない様々なアクティビティを提供し、みなかみ町の自然を満喫してもらいながら長期滞在を促していく

第1ターゲット

豊かな山岳観光資源がもたらす
(谷川岳・利根川・赤谷湖・森林etc...)
体験型観光やアクティビティを
求める若年層



キャニオニング、マウンテンバイク、
サウナ、スキー など

第2ターゲット

ユネスコエコパークやSDGs未来都市
についての
学び・体験・実感を求める
三世代ファミリー層



温泉、エコツアー、林業体験、
キャンプ、工芸体験 など

第3ターゲット

日本独特の「自然観」について
関心が高く、
日本ならではのグリーンツーリズム
を求めている外国人



スノーシュー、スキー、そば打ち、
工芸体験、原生林ツアー、カー
など

XX : 各ターゲットに特に訴求可能なアクティビティ

<すべてのターゲットに共通する、ベースとなる考え方>

- ✓ みなかみ町が首都圏3,000万人の生活を支える「水瓶」であり、綺麗な水を生む自然環境は貴重であることを理解している
- ✓ 豊かな山々/森林は首都圏で排出されるCO2を吸収し地球温暖化防止に貢献すると共に、里山の水田は治水・利水・土砂災害防止など国土強靱化の基礎を担っていることを理解しており、自然保護や環境問題に関心が高い
- ✓ 本町が「みなかみユネスコエコパーク（Biosphere Reserve）」であり、自然との共生を目指していることを理解している
- ✓ 自然環境に悪影響を与える「オーバーツーリズム」を好まず、「High Value Low Volume（高価値を少人数に）」という自然に優しい観光を好む

2. 地域計画

C. 課題・具体的施策

課題

自然・文化との調和が欠けた景観

- 景観を毀損する廃屋が点在し、景観の統一も図れていないことで、観光客の回遊性向上やまち歩きの満足度向上を阻害している
- 特に、みなかみの象徴的景観である谷川岳の眺望や利根川のせせらぎを阻害する景観は早急に改善すべきである

宿泊施設における陳腐化の進行

- 長年改修していない施設が多く、ビジョンで定めた自然との共存を体感できる施設や、高付加価値なサービスを提供できる施設が少ない

優れた素材を観光に活かしてきていない

- 豊かな自然・温泉・文化など、みなかみ町の数多の魅力的な観光資源を、日本ならではの体験を求めるインバウンドや“コト体験”を求める若者のニーズに対応する形でコンテンツ化してきていない

一部観光客において滞在時の利便性/快適性が低い

- 公共交通・タクシーの機能が弱いため、車がないと回遊が困難
- 域内のバリアフリー化も改善の余地があり、一部観光客に十分な快適性を提供できていない

生産性の低い観光地経営

- 魅力的な観光スポットが点在するものの、情報収集から予約までの導線がなく、機会損失になっている
- 外部OTAへのマージン流出や小規模事業者の巻き込み不足など、地域一体で経営を効率化する動きが乏しい
- 観光客データに基づく施策を打てておらず、勘に頼っている

具体的施策

施策A

みなかみの豊かな自然と調和した景観整備

- 周囲の自然に溶け込むような色調・材質を用いた外観改修により、コアエリアを中心に景観改善を実現
- 景観を毀損する廃屋を撤去し、跡地を自然と触れ合えるスペースとして活用

施策B

自然と共存する遊びを体感できる宿泊施設への改修

- 山々を臨める客室、川のせせらぎを感じる露天風呂、サウナ付き客室などへの改修によって、自然と共存できる極上の癒やし空間を構築し、長期滞在の拠点や“第二の故郷”としての価値を提供

施策C

豊かな自然を活かした観光コンテンツ/サービスの開発

- ハード：美しい眺望のカフェ/レストランへの改修や土産店の改修、足湯の整備などを通じて、ターゲットに訴求できるコンテンツを開発
- ソフト：各ターゲットに刺さるコンテンツを調査したうえで、夜間のツアーや自然を活かしたアクティビティ、伝統文化や農林業などみなかみ独自の体験プログラムなど、幅広いコンテンツの開発を推進

施策D

誰もが何の障害もなくみなかみの自然を楽しめる環境の整備

- 宿泊/観光施設におけるバリアフリー化を推進することで高齢者/障がい者の方も自由なくみなかみの自然を楽しめる環境を整備
- MaaSの活用、シェアカー、レンタサイクル、事業者の共同送迎、地域交通会社との連携により二次交通網を強化

施策E

観光客の総合的な体験価値向上を下支えするDX化の推進

- 地域DMOの公式サイトに地域OTAサイトを内包し、宿泊施設やアクティビティの予約・決済を一元化
→観光客の利便性向上・再訪意欲喚起、獲得資金の地域内への還流
- 利用者の属性/決済データを収集・分析し、観光施策に活用
- 事業者の巻き込み継続やインバウンド向け機能の拡充を通じてサービス拡大を図る

面的DX